

指標 15.b.1

指標名、ターゲット及びゴール

指標 15.b.1 (a)生物多様性の保全と持続的な利用に係る ODA、並びに (b)生物多様性関連の経済手段によって生み出された歳入及び動員された資金

ターゲット 15.b 保全や再植林を含む持続可能な森林経営を推進するため、あらゆるレベルのあらゆる供給源から、持続可能な森林経営のための資金の調達と開発途上国への十分なインセンティブ付与のための相当量の資源を動員する。

ゴール 15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

定義及び根拠

○ 定義

生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する ODA（生物多様性のための ODA 支出総額の合計として定義づけられる）。

（注：上記指標の 2 要素のうち、(b)については現状では算出ができないため、(a)のみを算出対象とする。）

○ 概念

OECD 開発援助委員会（DAC）は、ODA を、DAC・ODA 受取国・地域リストに掲載された国及び地域、並びに、国際機関に対する資金の流れのうち、次の条件を満たすものと規定している。

(1) 国及び地方の政府等の公的機関、又はその執行機関によって供与される。

(2) いずれの案件も、

a. 開発途上国の経済開発と福祉の促進を主目的とする。

b. 譲許性を有する。

<http://www.oecd.org/dac/stats/officialdevelopmentassistedefinitionandcoverage.htm> を参照)

生物多様性のための ODA は、リオマーカー「生物多様性」を通じて捕捉される。

○ 根拠及び解釈

開発途上国への ODA の流れの合計は、ドナー国が開発途上国の生物多様性のために提供する公的努力を測るものである。

データソース及び収集方法

OECD/DAC は公的資金及び民間資金の流れについて、1960 年から合計額レベルで、1973 年からは Creditor Reporting System (CRS) を通じた案件別レベルで、データを収集している (CRS データは、約束額は 1995 年から、支出額は 2002 年から、完全なものとは見なされている)。リオマーカー「生物多様性」は 2002 年に導入された。データは DAC ドナー、その他の開発協力供与国、及び国際機関から提供される。

データの収集は、国の援助機関、外務省、などの統計報告者による、暦年毎の報告を通じて行われる。

算出方法及びその他の方法論的考察

○ 算出方法

生物多様性を主要な目的又は重要な目的とし、従って、リオマーカー「生物多様性」が付された、開発途上国への ODA の流れの合計。

○ コメントと限界

CRS データは 1973 年から利用可能。

ただし、案件別レベルのデータの捕捉が完全であると見なされるのは、約束額は 1995 年から、支出額は 2002 年からである。

リオマーカー「生物多様性」は 2002 年に導入された。

データの詳細集計

この指標は、ドナー、受取国・地域、資金種別、援助分類、下位セクター、政策マーカー (例：ジェンダー) などに分解可能。

参考

URL: 全てのリンクはこちらから

<http://www.oecd.org/dac/stats/methodology.htm>

データ提供府省

外務省

関連政策府省

内閣府、外務省、農林水産省、農林水産省林野庁、環境省

担当国際機関

経済協力開発機構 (OECD)

国連環境計画 (UNEP)

世界銀行